

日本共産党松江市委員会機関紙

新しい松江

発行 日本共産党松江市委員会・松江市袖師町3-6 電話24-2456

7月21日（日） 日本の命運をかけた 政治審判の日 市民と野党の共闘の力で 安倍政治を変える日に！



政治戦始まる

21日の夏の選挙は、全国で大激戦・大接戦となっています。内政・外交のあらゆる分野で行き詰まる安倍政治の継続を許さず、憲法9条を守り、原発ゼロの政府をめざす野党統一の勝利と日本共産党の躍進で政治とくらしを変えようと、党後援会は広く呼び掛けています。

4日夜には、県民会館で



質問する田中はじめ市議

テルサ前には多くの聴衆で埋まり、その一人は、「年金問題で都合が悪くなると報告書を受け取らない安倍政権はもうやめてほしい。」と話しました。

「安倍政治を終わらせよう」と発言しました。

6月議会で共産党市議団は、24日に田中はじめ市議が市長の政治姿勢、お金の心配なく医療にかかれる施策、ゴミ袋問題、原発問題など6項目で代表質問を行いました。続いて25日に吉儀けいこ市議が一問一答質問、26日に橋よしあき市議が一括質問を行いました。

田中はじめ市議が6月議会代表質問 憲法9条、消費増税で、市長の政治姿勢を問う

参加者からは、「日本を

報告を行った細野大海中央委員会組織局長は、年金問題が急浮上する中、情勢は激動しており、支持者は全て共闘勝利の担い手にし、共闘の輪を大きく広げて、21日を歴史のページを開く日にしようと呼びかけました。

日本共産党東部地区委員会の決起集会が開催されました。



東部地区委員会決起集会

田中はじめ市議は、①憲法9条を変えることのないよう、政府に求めることについて、「集団的自衛権の行使容認を閣議決定で

戦争国家にしたいくない」、「草の根から政策を訴えたい」、「担い手を増やして取り組む」、「市民の中に起きている変化に負けないよう頑張る」との発言が相次ぎました。

生ごみが出せない非常事態、旧袋でも収集すべきと主張

田中市議は、①対応のあり方と教訓について、「生ごみが長期間出せない生活を市民に強いることになる」と認識した時点で、旧袋でも期間を区切って受け付けるという意思決定をすべきではなかったか。今後には生かす教訓は何か。②「日常生活の必需品であるゴミ袋については、海外生産ではなく国内で調達すべきではないか。」と質しました。

これに対し、松浦市長は、「改憲の必要性も含め、各政党間で国民が納得できる論議をしてほしい。」「消費税率の改定は、社会保障の充実と財政健全化のため欠かせない制度改正として、10月に実施されるべきもの」と考える。」と答えました。

5月13日、景気動向指数に基づく基調判断を6年2か月ぶりに「悪化」に引き下げた。経済の指標は消費税増税の状況にはない。消費税に頼らず、所得のある所に課税することで財源を確保するという財政運営こそ、松江市民の暮らしを守る方向と考える。消費税増税中止を政府に申し入れるべきではないか。」と質しました。



7月22日（月）東出雲支所10:30発→メモリアルホール東出雲／わかたけ保育園前11:30発→八幡宮農組合倉庫／プラバホール17:30発→大手前駐車場
7月23日（火）天神ロータリー10:00発→JR乃木駅／玉造病院13:00発→玉湯交差点